



当センター中庭に咲いた
紅白のハナモモ

第二十二回 平成二十四年四月一日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂三-三-二十五

行事紹介

平成二十四年一月から三月にかけて当センターで行われた行事（成人式、卒業式・卒園式）について紹介します。

成人式（二階西病棟）

平成二十四年一月十八日（水）コスモス病棟でS様の成人式が行われました。成人式にむけてBGMの選曲や当日の衣装など一緒にたのしみながら準備しました。

当日はご両親と一緒に二十歳の記念にふさわしい振袖姿で登場され、会場の皆が目を奪われたことは言うまでもありません。式典ではたくさんの方からお祝いの言葉をいただきました。S様と学生時代の担任の先生と一緒に「エアザイル」の演奏を披露していただきました。

また、スライドの上映ではお母様がS様の誕生から今日までを振り返り、写真にまつわるエピソードをお話し下さり、大変感動的でした。大人への第一歩を踏み出したS様。新成人としてますますのご活躍をこすもす病棟職員一同、これからもずっと応援していきたいと思っております。



成人式の写真
S様を囲んでご両親、先生と一緒に撮影

成人式を迎えて

平成二十四年一月十八日（水曜日）、通所テイルームにて成人式の式典が執り行われました。

会のはじめに有馬院長、特別支援学校の担任の先生、保護者会長から祝辞をいただきました。成人者からは「二十歳を迎えて」のメッセージをいただきました。その後スライドを上映し、成人者の幼少時の楽しかった思い出や、大きな苦難を乗り越え今日を迎えられたことをお母様が話され、参列したみなんで共感し、それぞれの言葉を胸に刻みました。

式典の最後は出席できなかった利用者様の代わりに利用者様のご家族から感謝の言葉を代読し、和やかな雰囲気の中で式典を終えました。午後の部は「シャンパンタワー」を行いました。スタッフ皆が協力して、

笑顔と声かけ

診療部長 益山 龍雄

自分で動けなくなり、ベッドでねているとき、お見舞いの人や介護の人の表情や声かけの大切さについて考えることがあります。どのようにしてもらいたいかを考える時、笑顔であいさつされると落ち着くのではないのでしょうか？移動の時、着替えの時にも同様です。以下はT君の声です。

一日、天井ばかりみていてもつまらない。音楽や刺激がほしい。楽しいことがあるとそれにつながらる夢も楽しい夢になる。

本当はいろいろチャレンジしたい、でも怖いし、動けないからできない。しっかり支えてくれると安心してできそうな気がする。

体が動かさない。体のリハビリで体を動かす時、少し痛くていやだけど、そのあと体が軽くなる。やさしい先生がすき。

検査の時、黙って検査をされると不安になるけど、笑顔で声かけしてくれてありがとう。

一日中、アラムがなり、忙しく仕事をしている看護師さん、それでも笑顔でいてくれてありがとう。車椅子から全員がシャンパンをグラスに注ぐことができて、また、栄養科より美味しいケーキも華を添えました。ご協力いただいたリハビリ科の方々、東京福祉バスの運転士さん、そしてこの日の為にみんな頑張ってくれた事を本当に嬉しく思います。成人を迎えられた皆様、おめでとうございます。



通所成人式の写真
新成人とご両親
(有馬院長（中央）、岩崎副院長（後方左から三番目）)

平成二十三年度 かもめ分教室 「卒業を祝う会」

平成二十三年度かもめ分教室の「卒業を祝う会」が三月二十二日に盛大に行われました。今年で第五回目になります。今年には卒業生も多く、小学部四名、中学部四名、高等部二名の児童・生徒さん達がめでたく卒業を迎えられました。



かもめ分教室 「卒業を祝う会」
卒業記念写真

祝う会にはたくさんの方々がお越しくださいました。ご家族、懐かしい旧担任、センターの職員の皆さん、そして一緒に学習した友達。皆さんの大きな拍手に迎えられ、入場し、暖かい雰囲気の中で会が始まりました。「校歌」を歌い、次に校長先生、有馬院長からのお祝いのお言葉をいただきました。

その後、スライドを見ながら、卒業生のこれまでの成長を振り返り、一人ひとりに校長先生から卒業証書が手渡されました。参加されたご家族の皆さんも感慨深い様子でした。

最後に会場全員でアーチを作り、「おめでとう」の掛け声の中、暖かい余韻に包まれながら卒業生を送り出すことができました。

改めて、このたび卒業を迎えられた皆さん、ご卒業おめでとうございました。

いつもおいしい食事を作ってくれてありがとう。たべやすいようにくふうしてくれてありがとう。T君いろいろ教えてくれてありがとう。さて、話はかわりますが、東部療育センターも開設七年目となっております。展開期となっております。開設後、培ったノウハウを入所や通所、さらには在宅のご利用者に対して少しでも良いものを提供していきたいと思っております。ご利用者、さらにご家族の元気、安心、笑顔が増えるような施設になるよう職員一同、一歩一歩、歩みを進めていきたいと思っております。



乳幼児通所卒園式

三月二十三日金曜日、二階プレイルームにて、乳幼児通所「ほれほれ」の卒園式が行われました。当日はあいにく雨になってしまいましたが、多くの在園児、保護者の皆様、スタッフ全員で、二名の卒園児を送り出すことができました。院長先生の心温まる祝辞に始まり、在園児のお母様からの送辞では、一緒に歩んできた仲間へのエールがこめられていました。

スライドショーではたくさんのお笑い出の写真が映し出され、二人の笑顔と成長していく様子を参加者全員で実感することができました。卒園児のお母様からの答辞では、今までの卒園児とご家族のがんばりを感じることも、成長の喜び、学校への入学に向けての決意が感じられ、とても感動的でした。卒園の歌の「手の歌」の合唱と、みんなの手づくりし、たくさん練習した楽器を使つての「バナナの親子」の合奏は、二十三年度の「ほれほれ」の集大成となりました。ご卒園本当におめでとうございます。



乳幼児通所卒園式
卒業記念写真

地域通所連絡会

平成二十四年二月十六日に東部地区の四区（江東・江戸川・墨田・中央）の障害者福祉課や施設職員の方々を迎えて、研修会と情報交換会を実施しました。十五機関、二十七名の参加がありました。今年で五回目となります。

一部では岩崎副院長から「障害児者の呼吸器障害とその対応」についての研修を実施しました。呼吸障害の症状や原因から呼吸を察知するため姿勢の工夫や呼吸介助の方法等具体的な内容でした。

二部の情報交換会では四月から東部の成人の通所が自立支援法の生活介護事業と都からの重症心身通所の二重の指定を受ける事業所になること等の変更点を説明しました。そのため、センターの通所の役割として、超重症児・準超重症児で濃厚な医療的ケアを必要とされる方を中心に対応していきたい

事等を伝えました。各区の方々からは区の施設の人数が増加している事や医療的ケアの方の対応も進みつつあるが、対象が増えつつあることや看護師確保の困難さ、生活支援員等の医療的ケアについては検討もされていない段階である等の課題が出されました。従来からも提案していますが、再度当センターから地域施設での医療的ケア実施に対して支援の提案をしました。また、現在一部で実施されている区の施設との併行利用を進めて、地域施設との交流を推進していきたい事を要望しました。

新人紹介

四月より一緒に働くことになりました、山田看護担当科長と庶務の佐藤主査をご紹介します。

療育部 山田看護担当科長

四月一日から療育部に入職致しました。今まで三十余年の看護経験の中で療育に三年間、神経難病の看護に五年間携わったことがあります。

そのときに印象深く思い出されることは、ご家族同伴のバスハイクでは日常見ることがない生き生きとした利用

第四回院内研究報告会

三月十四日に院内研究報告会が行われました。今回は、事例実践報告・業務改善・研究報告の三つの分野ごとに発表が行われました。

全体で十一課題の発表があり、審査員一同それぞれの報告がセンターの四年にわたる医療・療育の活動の成果を実感する事ができたとする評価で一致しました。

最優秀賞
「非経口摂取者の効果的な口腔衛生について」
プロフェシヨナルナース研修第一期生 川上絵里子さん

優秀賞
「創作活動と創作物の飾り方の工夫と車椅子乗車時の視野を踏まえて」
看護師 築場早苗さん

敢闘賞
「スヌーズレン活動をより豊かにする提案」アンケートによる現状把握と意識調査から」
作業療法士 山際英男さん

特別賞
「心身障害児（者）における歯科治療前後の体温変化について」
歯科医師 牧山田津子先生

が受賞しました。このような取り組みが今後の療育に生かされていくことが期待されます。

MRIの設置について

この度、MRI（磁気共鳴画像診断装置）が導入され、この六月ごろより運用されることになりました。MRIの設置場所は職員食堂 旧厨房を改修しました。

画像診断装置として開設当初からCTは設置されていましたが、外来での患者様の医療ニーズに定める必要があることから、その必要性を強く訴えて東京都に設置を認めていただきました。機器の導入により、これまで他の医療機関ではなかなか受け入れが困難であった障害児（者）の方々にもこの装置による検査ができるようになります。

重症心身障害児（者）施設ではMRIの設置はまだ一般的ではありません。当センターのMRIが十分に活用され、障害児（者）医療に貢献することが期待されています。

設置工事期間中は食堂の利用など、皆様にご迷惑をおかけしましたが、ご協力ありがとうございました。



当センターに設置された
オープン型MRI

東部あねこれ

今年の一月から三月にかけて当センターで行われた行事等について紹介します。



有馬院長（中央）と今回受賞された皆さん
（写真前列左から山際さん、川上さん、有馬院長、築場さん、牧山先生）
（写真後列は共同演者の皆さん）

「一月」

二十七日（金曜日）に、東陽町の「ホテルイースト二十一東京」で、職員互助会の親睦会が開催されました。夜勤業務の関係で、すべての職員が一同に会することはできませんが、委託業務の方達も参加され、暗い出来事が多かった昨年を吹き飛ばすようなにぎやかさでした。

最後は参加者全員が手をつなぎ、絆を強めました。

者様の表情や太鼓演奏では音の振動を浴びて全身揺らして喜びを表現している姿などが忘れられません。

この度、縁あって療育に再度関わることになり大変うれしく思います。当センター基本原則の「最も弱いものをひとりももれなく守る」という言葉に身の引き締まる思いであります。

皆様との出会いを大切に、利用者様およびご家族に寄り添った療育をめざしていきたいと思っております。

庶務 佐藤主査

四月から事務室にお世話になってます佐藤です。私は、福祉保健局で療育施設の建設等を担当しており、また府中療育センターでは、三年間事務室で施設の運営に携わってきました。この度、東部療育センターに勤務する機会に恵まれたことに感謝し、様々な職種の方々と一緒に仕事ができることがとても楽しみです。

まだ、不慣れな私で皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、今までの経験を活かし、利用者の皆様が安全にそして楽しい生活をしていけるように支援していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

「二月」

十六日（木曜日）、中庭の畑に植えられていた大根の収穫がありました。利用者のご家族の方々が良く手入れをしてくださったお陰で、見事に育った大根がたくさん採れました。冬の大根の味は格別ですね。

「三月」

四月からの入所契約更新を行いました。法律改正に伴い、十八歳以上の方は障害者自立支援法の「療養介護」、十八歳未満の方は「障害児入所支援」契約を結びました。

編集後記

まだ風の冷たさは厳しいですが、一日一日と日差しが強くなり中庭の菜の花が満開となっています。三月は卒業や卒園、四月は新しい利用者の方や職員が入り、新たな一年が始まる季節です。天災や大きな事故のない穏やかな年度になることを願っています。

